

気づこう 共に生きるその心

山本 美念子

【推進員認定期】第6期

【所属】あったかウェルねっと・聴覚障害者協会

【活動エリア】草加市、他

学習対象者	小学生 中学生 高校生 住民 その他()
内 容	障がい理解(車いす体験、アイマスク体験、 障がい者と交流 施設体験、 その他(講話「聴覚障害理解」 手話体験) 高齢者理解(高齢者疑似体験、高齢者と交流、施設体験、その他() その他の理解()
所用時間	1回あたりの時数：45分～2時間
ねらい	聴覚障害について学ぶ 様々な工夫でコミュニケーションが取れることを知る

はじめに

私は子供を産んだ後、徐々に聴力が落ちていきました。いつかは治る、という思いで病院を転々としたのですが、どこでも治すことはできませんでした。

聞こえるという便利な世界で生きてきた私は、出来なくなった事ばかりが目につき、落ち込む毎日です。けれど、「お母さん、いつも一緒に行ってあげられないよ」という子どもの一言が、手話を覚えるキッカケとなりました。

聞こえない状態で手話を学ぶのは容易ではありません。蝸牛ならぬカタツムリのようにノロノロです。それでも手話を学び続けて10年以上。聞こえない世界も少しずつ知る事が出来るようになった今、聞こえる世界と聞こえない世界の橋渡しが出来るようになればいいなと思っています。

実践内容

【講話】

1 耳の構造について

音の長い旅(音が耳の外から入り、鼓膜を通過して大脳に伝わる構造について図を使って説明する)

2 聞こえ方の違い

どの部分が故障するかによって聞こえ方が違う

- ・伝音性難聴（鼓膜の外が故障 音が小さく聞こえる）
- ・感音性難聴（鼓膜の中が故障 音の大きさは同じだが、ゆがんで聞こえる。補聴器を使っても難しい）
- ・混合性難聴（両方あわせもったもの）がある。

聞こえなくなった時期（生まれつき、成長の途中・大人になった後、老化現象）

私は大人になった後に聞こえなくなったので、声を出してはっきりと話ができる

3 様々なコミュニケーション方法

手話、指文字、身振り、表情、口の形、紙に書くなど様々な方法がある。

4 私は聞こえない？

私が聞こえなくなった時のこと（病院めぐりの日々）

5 小さな通訳者

娘が小さい時は通訳がわりになってくれたが、次第に成長・独立し、自分が手話を学ぼうというきっかけになった。

6 聞こえないと何が困るの？

24時間困る事だらけ

仕事、美容院や支払い、病院、薬、熱、生活音、電話、趣味など生活の潤い（会話する事が嫌になった）

7 聞こえると便利

声でわかる体調等、危険回避、予測の力、聞きたい音を拾う力、時間を何倍にも使える

8 コミは生きる力

ベストフレンドの優しさ、様々な人が社会を構成している、伝えたい気持ちが大切

9 お願いしたいこと 別添資料のとおり

【簡単な手話を学ぼう】

手話を覚えよう（男、女、家族など） ドラえもんの歌 を手話で歌おう

ここがポイント！

- ・手話を知らないと思いませんか？通じる方法を一緒に考えてみよう。
- ・聴覚障害者といっても、話が出来たり、声を発するのが難しかったり、十人十色。
- ・「聞こえないと出来ない」ではなく、できるように工夫する。
- ・この講座が家族とのコミュニケーションのキッカケになるように。

成果と課題

(小中学生・一般の感想文から)

- ・耳の仕組みと、音がどうやって伝わるのかがわかった。
 - ・手話をもっと覚えたいと思った。
 - ・色々工夫して生活している事を知った。
 - ・通じる方法がたくさんあることに驚いた。
 - ・見た目では【聞こえないこと】は判らないということがわかった。
 - ・いま自分にできる事をして、みんなが暮らしやすい町にしていけたらいい。
 - ・おばあちゃんが歳をとって聞こえなくなったので、今日の話をおばあちゃんにしてあげたい。
 - ・聞こえない人の気持ちを100%わかることは出来ないが、困っている人がいたらどうやったらよいかわかったので手伝ってあげたい。
 - ・車や自転車の音がわからないので事故に遭わないように気をつけてください。
 - ・聞こえないと日常生活にすごく影響するとわかった。
 - ・話す時は一文字ずつ区切らず、普通に話したほうが言いとわかった。
 - ・仲間との交流や、支えあいが大切とわかった。
 - ・設備など、何処をどのようにしたらいいのか考えたい。
 - ・将来、みんなが安心して過ごせるように、工夫や意見を出していきたい。
 - ・話したり伝えたりする事が支えになると思うので、自分に何が出来るか考え、気を配っていきたい。
- い。
- ・身振りで通じるようになると、どんな国の人とでもなかよくなれる。
 - ・耳の聞こえない人には無理とってきたことを申し訳なく思う。
 - ・「目を見て話そう」、これならすぐにできると思った。
 - ・呼んで反応がなくても、もしかしたら...という気持ちをもって接したい。
 - ・自分達にもできる事がたくさんあると感じた。
 - ・以前、体の不自由な人を見かけたのに通り過ぎ、後悔した。次からは積極的に協力しよう。
 - ・まず、身近にいる人が理解する事が必要。
 - ・もしかしたら、手話は言葉よりも良く気持ちが伝わるのでは？
 - ・障害と見ないで、個性だと思えば自然にコミュニケーションがとれるのでは？
 - ・小さい時から遊びの中に手話を取り入れて広めればどうか。
 - ・「聞こえる幸せ」を当たり前とっていた。なんて贅沢なんだろうと気付いた。
 - ・手話が広まったらみんなが仲良しになれるような気がする。
 - ・意思伝達は言葉を通じてしか考えられなかった。
 - ・手話はハードルが高いと思っていたが、歌から入るととてもいい。

